

移動する生徒の海外協働学習 COLP : Cooperative Online Learning Program for International Mobile Students Between Sponsoring and Affiliate Educational Institutions

(研究代表者)

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部
教授 津村 公博

(共同研究者)

常葉大学 教育学部
准教授 白鳥絢也

常葉大学・浜松学院大学
非常勤講師 田島 喜代美

研究の概要

本研究では、浜松市と海外の都市を移動する海外につながる子どもの教育を研究テーマとし、「受け入れ地域」の浜松市と、「送り出し地域」のフィリピン共和国ダバオ市の教育機関が連携して、オンライン海外協働学習を実施し、その教育効果を検証することである。研究は「海外につながる高校生」の学力定着、大学進学を促し、将来のグローバルリーダーの人材育成を図ることが目的である。

成果

1. 海外につながる高校生の学習全般への意欲と学力定着を目指す海外ICT協働学習プラットフォームのシステムの構築およびカリキュラムの策定
2. 海外協働学習のプラットフォームを活用した実践
3. 本事業に関する研究発表
フィリピン教育省Region XIダバオ市教育局
Achievements and Challenges of the Research Project COLP: Cooperative Online Learning between Kita and Konan High Schools in Hamamatsu City and Davao City Special National High School in Davao City.
COLPの成果と課題—静岡県立高等学校とDavao City Special National High Schoolの海外オンライン協働学習から（英語）
4. 日本比較文化学会 中部支部
Field Study Report on Learning Support for Ethnic Minority Students by High Schools and Universities in Silicon Valley Area
「アメリカ合衆国バイエアリアのシリコンバレーにおけるエスニック・マイノリティが在籍する高校・大学を対象としたフィールドワークの報告（日本語・英語）」

表1 協働学習実施概要

静岡県浜松市

回数	年月日	曜日	実施校	学年	国籍	人数
1	令和4	5月13日	木 静岡県立浜松北高等学校 定時制①	高校1～2年生	フィリピン、ブラジル、日本	28
2		5月27日	金 静岡県立浜松北高等学校 定時制②	高校1～2年生	フィリピン、ブラジル、日本	28
3		6月17日	金 静岡県立浜松北高等学校 定時制③	高校1～2年生	フィリピン、ブラジル、日本	26
4		8月31日	水 静岡県立浜松北高等学校 定時制④	高校1～2年生	フィリピン、ブラジル、日本	28
5		9月9日	金 静岡県立浜松湖南高等学校 英語科	高校1年生	日本、ブラジル	28
6	令和5	2月17日	金 静岡県立浜松湖南高等学校 国際交流委員会①	1～2年生16名	日本	30
7		2月18日	土 横浜みなみインターナショナルスクール	高校1～2年生	フィリピン、アフガニスタン、ウクライナ	9
合計						177

令和4年度の計画では、静岡県立浜松北高等学校定時制の高校1年、2年のみを本研究の対象としていたが、静岡県立浜松湖南高等学校英語科が9月に「総合的な探究の時間」の枠内で参加が実現した。同校の学内で実施した他の「総合的な探究の時間」と比べても、生徒の評価が高く、2月に実施した同校の普通科の生徒の参加につながった。また、同じく2月に参加した横浜南インターナショナルスクールの参加は、COLPの目的に最も近く、参加者はフィリピン共和国の生徒が中心であった。

フィリピン共和国ダバオ市

回数	年月日	曜日	実施校	学年	国籍		
1	令和4	6月17日	金	Davao City Special National High School	高校1年生	フィリピン	20
2		8月31日	水	Davao City Special National High School	高校1年生	フィリピン	20
3		9月9日	金	Davao City Special National High School	高校1年生	フィリピン	20
4	令和5	2月17日	金	Davao City Special National High School	高校1年生	フィリピン	22
5		2月18日	土	Davao City Special National High School	高校2年生	フィリピン	15
合計							97

Davao City Special National High Schoolは、名前の通り、特別支援を必要とする生徒も在籍しているインクルーシブ教育を実施している。特別支援の対象生徒に対して、一般の生徒が適切な社会的包摂を促進する環境を構築するように求められおり、勉強意欲も社会的な意識の高い生徒が多い。今回参加した生徒もそのような社会的意識が高く、多様性も強い関心を示した。ダバオ市から「国際移動」したきっかけやその後の文化的変容を問う生徒もあり、COLPに強い関心を示した。

研究報告

移動する生徒の海外協働学習 COLP : Cooperative Online Learning Program for International Mobile Students Between Sponsoring and Affiliate Educational Institutions

(研究代表者) 津村公博 浜松学院大学
(共同研究者) 白鳥絢也 常葉大学
(共同研究者) 田島喜代美 常葉大学/浜松学院大学

1. 背景

少子高齢化による労働力不足から、1990年の改正入管難民法により、輸送用機器産業の集積地域である静岡県西部には多くのデカセギ日系人労働者が流入した。デカセギ日系労働者の多くは、幼い子どもも含めて家族を帯同していたが、2008年の世界的な経済不況において、デカセギ日系労働者の多くは失業し、家族を連れて帰国を余儀なくされた。しかし、2015年以降には、浜松市の人手不足と送り出し国の経済の状況から再び日系労働者が増加している。

このデカセギ日系人労働者の不安定な雇用を反映して、浜松市内の公立学校に在籍する日系人を中心と外国人児童・生徒も、帰国や再入国を繰り返す状況にある。以下に、浜松市内の公立学校に在籍する外国人児童生徒の在籍数の推移を示す。(図1)

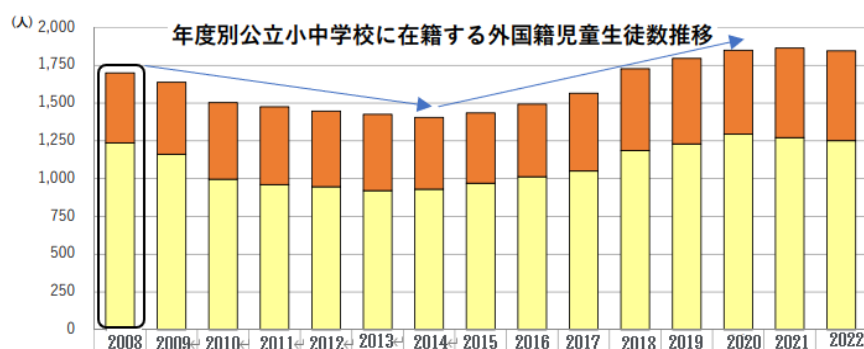


図1 公立学校に在籍する外国人児童生徒の在籍数の推移

出所) 浜松市教育委員会「外国人子供教育推進事業」説明資料を元に、筆者作成

次に、浜松市内の義務教育年齢期にある小学校・中学校の在籍者を見る。(表1)

表1 浜松市内の義務教育年齢期にある小学校・中学校の在籍者

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	計
中学校	463	477	507	515	501	505	475	465	480	515	541	566	556	592	595	7753
小学校	1237	1161	996	961	946	921	930	970	1013	1050	1186	1230	1294	1272	1251	13895
計	1700	1638	1503	1475	1447	1426	1405	1435	1493	1565	1727	1796	1850	1864	1846	18610

出所) 浜松市教育委員会「外国人子供教育推進事業」説明資料を元に、筆者作成

浜松市の小中校に在籍する外国人児童・生徒の推移をみると、小学校の児童数に比べて、中学校に在籍数は著しく減少している。2008年から2020年までの中学校在籍者数は小学校の在籍者数のおよそ半分である(55.7%)。学年が上がるにつれて、学校から離脱する理由は、以下の2つの理由が考えられる。

(1) 同化教育

外国人の子どもたちが日本の学校教育に同化することを目的とした同化教育は、文化的な違いや言語の壁などが原因で、外国人の児童生徒が、不就学や不登校に陥ると考えられる。

(2) 義務教育が適用されない外国人児童生徒

日本国籍を有しない外国人児童生徒は、義務教育が適用されないため、不就学になる可能性がある。

2. 研究の目的

研究課題	「エスニック・マイノリティの生徒が、親と同じ非熟練労働の連鎖を切り、多様な言語・文化を活用しグローバルリーダーとしての適性を育成するには、どのような支援が必要なのか」
↓	
仮説	「多文化教育をオンラインで実現させるCOLPは、エスニック・マイノリティの生徒が、自分たちの文化や歴史を認められ、尊重されることで自己肯定感を高めることができ、動機づけが強化される仮説を立てる。
↓	
研究目的	「エスニック・マイノリティの生徒が、遠隔においても多文化教育を享受できるCOLPの有効性を検証する」

3. 研究方法

海外につながる高校生の学習全般への意欲と学力定着を目指す海外協働オンライン学習システム（COLP）を構築する。同時に、海外協働オンライン学習システム（COLP）を用いて、協働学習を実践することで、実践的な知識を開発し、理論的枠組みを明らかにする目的としている。本研究には、実践を通して問題を解決し、計画を改善するアクション・リサーチのアプローチを採用している。

4. COLPの2つのプラットフォームの実装

(1) LMS（Language Management System:学習管理）プラットフォーム

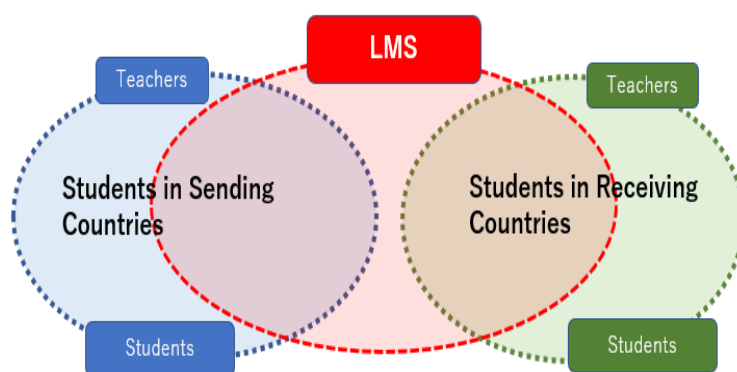


図2 LMS（Language Management System:学習管理）プラットフォーム

参加する双方の教員・コーディネーターにより、学習コンテンツを提供し、学習者の進捗状況を追跡・管理する。

(2) LCS（Learning Community System:協働学習）プラットフォーム

COLPに参加する学校の学習者による主体的・能動的な学びの共同体である。以下の機能を使いながら双方向でのコミュニケーションが可能である。代表的な機能を紹介する。（表2）

表2 COLPの機能

プロフィール	参加者の自分自身に関する情報を入力し、公開することができる。自己紹介や職歴、趣味、興味などを記載する。
フィード	最新の投稿やニュース、イベント情報を分自身に関する情報を入力し、公開することができる。
フォーラム	学習者同志が、特定のトピックについての議論をすることができる。
チャット	リアルタイムでのコミュニケーションを行うためのツールであり、テキストや音声、動画を使って、でコミュニケーションを取ることが可能である。

参加する学校が複数になると、Social capital（ソーシャル・キャピタル）を高めることになり、社会的ネットワークの強化、共同体意識、協力関係や信頼関係の強化、コミュニケーション能力の、知識やスキル習得の動機づけ、コミュニティへの献身や社会貢献に対する態度を養うことにつながる。（図3）

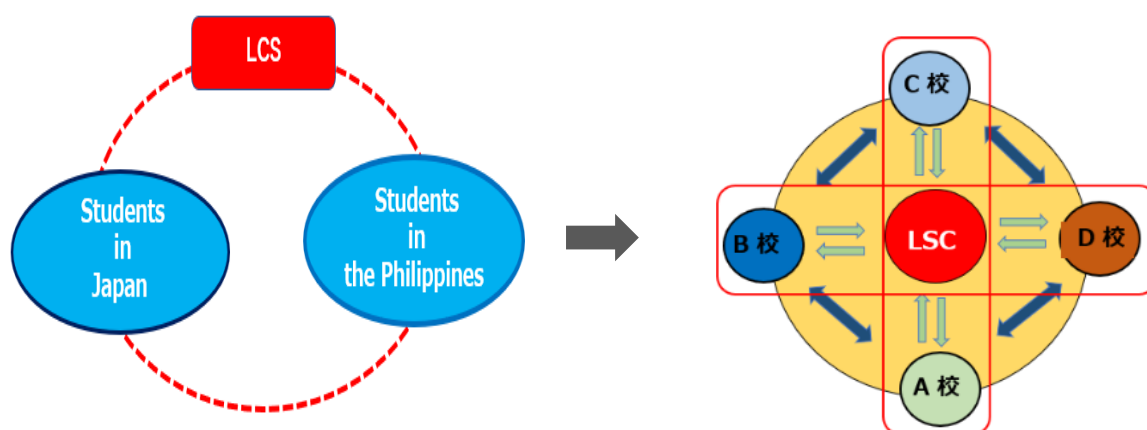


図3 LCSによるSocial capitalの強化

COLPにおけるLCSは、教員・大学生コーディネーターが、管理できるため、オンラインいじめ、オンラインストーキング、個人情報のセキュリティの不安、不適切なコンテンツの投稿等の危険にさらされることはない。

4. 課題

1. 静岡県立高等学校のLCSの生徒使用の許可がでない、あるいは許可に時間がかかる。
LCSへの参加が困難なため、参加生徒の行動思考や考え、気持ちを抽出できない。
2. ダバオ市の公立学校のWi-Fi環境が不安定である。

5. 最後に

本研究の目的である、「海外につながる高校生」のグローバルリーダー育成のモデルとして、カリフォルニア州ベイエリア、シリコンバレー地域の高校・大学を対象とした、フィールドワークを実施した。（表3）シリコンバレー地域には、エスニック・マイノリティの市民も多く、テクノロジー関連企業に多く従事している。

表3 フィールド調査訪問先

3月7日	Cristo Rey San Jose Jesuit High School
3月8日	Cristo Rey San Jose Jesuit High School
3月9日	Stanford University Medicine
3月11日	A Senior Analyst in the field of autonomous automobiles

シリコンバレー地域の教育やテクノロジー業界に詳しいGlenn Sanders氏（A Senior Analyst in the field of autonomous automobiles）は、COLPを従来の授業では得られない経験ができ、批判的思考、世界的な視点、異文化コミュニケーションを習得できると評価し、シリコンバレーの地域の高校が、このCOLPのプログラムに参加するように喜んで協力したいと提案を受けた。

彼は、シリコンバレー地域の高校の特徴を、Technology Focus、Diversity、Entrepreneurial Spiritの3つを挙げた。Technology Focusとは、テクノロジーを導入した授業（Technology Integration in Education）であり、Diversityとは、シリコンバレー地域の文化的・言語的な多様性を反映させ、多様な環境の中で、創造性・批判的思考・文化的意識を促進するような活動である。最後のソーシャルアントレプレナーシップ（Entrepreneurial Spirit）は、高校生に社会企業家精神を伝え、創造的で革新的に考え・行動する能力を育成していると述べた。

エスニック・マイノリティの生徒に共通する、新しいことに積極的に取り組む進取性が見られる。前述したSocial capital（ソーシャル・キャピタル）と多様性の承認は互いに関連し合う概念であり、より多様性を受け入れることで、社会の結束力が高まり、相互理解が深まることが期待できる。今後、COLPの柔軟性や機能性を活かし、多文化教育を実現していきたい。